

## 事業実績報告書

様式 2  
(2021年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-60	講座名	国際協力とフェアトレードと環境
記載日	2021/12/5	団体名・企業名	地域国際活動研究センター
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>2021年、コロナが世界に猛威を振るっている時に、人と人の協力、共働はどうなるのだろうか？飛行機が外国に飛ばないと、海外の友人や出来事は忘れ去るのだろうか？ネパールでのフェアトレードコーヒー作り。ベトナム人留学生の支援は多文化共生であり、環境問題は国内だけで完結しない国際協力活動だ。これが講座の問題意識でした。それら3つについて、対面方式のワークショップ形式で講師も参加者も学びあいました。参加者からは全体に好評で内容も高い評価を得ることができました。会場はいずれも北区大曽根にあるオゾンアベニュー会館3階会議室で開催しました。</p>			
			
11月6日(土)高岡秀暢講師(中央正面)の話		11月27日(土)池島英総講師(左立像)のフェア	
を聞いて、意見交換・交流をしている。		トレードの実情報告に、対話をしている。	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>3回の講座を開催した。気候変動による環境への取り組み、コロナ下でのベトナム人との多文化共生、フェアトレードのコーヒーと切り口はそれぞれ異なる。3回目の講師によって、最後にその3回の内容が関連した講座であることが説明された。自分と国際協力活動との立ち位置として、問題を捉えることにより、世界の中の自分が参加者にわかったと思う。コロナ下で不安はあったものの、対面形式で3回ともしっかりと対話、質問、振り返りができた。内容の濃い講座になったことから、参加者の満足度も高く、しかも全回ともアットホームな雰囲気を維持できたことに満足している。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)			
<p>◎1環境について新しい話や、まわりの参加者の話を聞くことが出来、話がわかりやすかった。          ◎2支援する側と支援される側の関係が分け隔てなくなると「支援」という言葉が消える、という話がよかったです。          ◎3の1体験に基づく話でわかりやすく実感できた。2フェアトレードの実際の様子や活動の内容を知ることができ、深まった。3フェアトレードは日本にいると買う人の視点で考えてしまいがちですが、生産者側の視点で「当たり前のことです」ということを実感しました。          4体験に基づいた世代の考え方とかも含めて、新しい考えや生き方も感じられるお話しで良かったです。          5講師の若々しい型破りの話し方が新鮮で良かったです。(以上参加者のアンケートより)</p>			